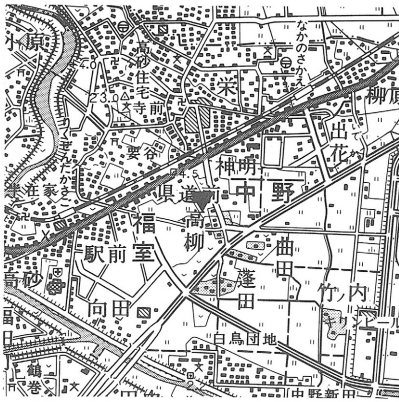


宮城・中野高柳遺跡
なかのたかやなぎ

- 1 所在地 宮城県仙台市宮城野区中野字高柳
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)七月～九月
- 3 発掘機関 宮城県教育委員会
- 4 調査担当者 佐藤則之・佐久間光平・須田良平・高橋栄一・引地弘行・稲毛英則

- 5 遺跡の種類 屋敷跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(仙台)

中野高柳遺跡は七北田川左岸の標高三～四mの自然堤防上に立地している。仙台港背後地土地区画整理事業に伴い、一九九四・九五年には宮城県教育委員会、一九九五～九七・九九年には仙台市教育委員会による発掘調査が実施された。

二〇〇〇年度の調査は、遺跡の北部約三〇〇〇m²を

対象に行ない、方形の堀に囲まれた中世の屋敷跡が発見された。屋敷跡は二時期あり、規模は、古段階で東西五五～六〇m南北六〇m以上、新段階で東西二五～三〇m南北四〇mである。屋敷内からは掘立柱建物群・井戸・溝・土坑などが検出されている。出土した遺物には陶器、石製品（石臼・砥石など）、木製品（柄杓など）がある。

木簡は古段階の屋敷跡の南側を区画する幅一・五～二・〇mの堀から出土した。年代は伴出遺物が少ないため、新段階の屋敷跡の年代である一六世紀以前という以上の限定はできない。

8 木簡の釈文・内容

(1) ○ □ □ 施主

(101)×27×1 081

細かく割れた状態で出土しており、接合の結果、右記の釈文が復原できた。語句の内容からみて、塔婆の断片の可能性などが考えられる。

(1) 7 高橋栄一、8 吉野 武